

YQNI

TRPG シナリオ Web アンソロジー企画

『Figural Echo』寄稿作品

シナリオ内の記号

- ◇ : 技能ロール
■ : 探索項目

略字一覧

- GM : ゲームマスター
PL : プレイヤー
HO : ハンドアウト
RP : ロールプレイ

このシナリオ内では、コラムにディーラー向けの補足情報を掲載しています。マスタリングのヒントとして参照してください。

使用サブリメント

- ・ 上級ルールブック
- ・ エフェクトアーカイブ

はじめに

この度は当シナリオをお手に取っていただき、ありがとうございます。
こちらはダブルクロス the 3rd Edition 対応シナリオとなります。
このシナリオは、PC を「新規作成」または「他の TRPG システムからコンバート」いずれかの方法で準備し、準備方法によってシナリオ背景の一部が変化します。
シナリオテキストデータおよびPDFデータをそれぞれ別ファイルで作成していますので、必要に応じて適切なデータを参照してください。
難易度の調節等、シナリオ内容の根幹にかかわらない程度の改変は自由です。

プリプレイ

シナリオデータ

プレイ人数 : 3 人
経験点 : 0 ~ 15 点
プレイ時間 : ボイスセッション 6 ~ 8 時間

ステージ

東京近郊都市「^{ひばやま}檜葉山市」を舞台とする。

トレーラー

書物とは歴史の標本であり、
文字とはその瞬間に生きた者を留める針である。

遥か太古より織りなされ積み重ねられたそれは、
彼の者にとってゆりかごとなるか、檻となるか。

黄泉よ。読めよ。^{やおよろず}八百万の宇宙の言祝ぎを。^{ことほ}

ダブルクロス the 3rd Edition
「YOMI」

ダブルクロス、それは裏切りを意味する言葉。

GM 情報

ストーリー概要

FHセル「星熟会」のセルリーダー「喜多骨巳」は「渾沌の降臨」計画と呼ばれる、宇宙再構築計画を企んだ。人工的にレネゲイドビーイング「渾沌の御子」を作り、この世界のレネゲイドを集約して星を破壊させるほどの強大な力に束ねた上で、レネゲイドの存在しない宇宙を再構築しようとする計画だ。

PCはこの「渾沌の降臨」計画を止め、星の破壊を阻止することがシナリオでの目的となる。

PCはシナリオ開始前の時点で既に一度、この目的を不完全な状態で達成している。「渾沌の御子」は星の破壊にこそ至らなかったものの、「渾沌の御子」を中心とする局所的な時空を巻き込むかたちで自己破壊を引き起こした。結果、檜葉山市を中心に疑似的な「過去への時間跳躍」が発生。PCはこの時間跳躍の影響で記憶のほとんどを忘却した状態で、再び「渾沌の降臨」計画阻止へ挑むこととなる。

このシナリオで遊ぶ際は、キャラクターを「新規作成する」または「他のTRPGシステムで作成した既存のキャラクターをコンバート（転換）する」いずれかの方法で準備する必要がある。キャラクターのをどちらの方法で準備するかによって、シナリオ背景の細部が変化する。

新規作成したキャラクターによる物語を〈原典〉、他システムからのコンバートキャラクターによる物語を〈異典〉と区別して詳細情報を記載し、シナリオ本文のテキストデータを分けている。

NPC

こんとん み こ 渾沌の御子 / Blessed by CHAOS

ブリード : ピュア

シンдрーム : ウロボロス

コードネーム : 渾沌の御子

【肉体 5】【感覚 4】【精神 6】【社会 3】

HP : 150 行動値 : 20 装甲値 : 0 浸蝕率 : 99% (+2 個)

取得エフェクト (浸蝕率反映済み)

〈ヒューマンズネイバー Lv1〉〈生命増強 Lv4〉〈反射適応 Lv6〉〈果て無き円環 Lv1〉〈オリジン : レジェンド Lv5〉〈無形の影 Lv1〉〈原初の赤 : 絶対の恐怖 Lv7〉〈原初の赤 II: 神の御言葉 Lv7 ※〉〈渾沌なる主 Lv5〉〈混色の氾濫 Lv5〉〈世界を喰らうもの Lv1〉〈蘇生復活 Lv1〉

E ロイス

「破壊神顕現」

※〈原初の赤 II: 神の御言葉 Lv7〉は、エフェクトの内容を一部改変したもの。〈原初の赤〉従来のエフェクト効果に加えて「『制限: リミット』エフェクトを取得できる」という効果を持つ。詳細については後述項目「天の種子」参照。

FH セル「^{せいじゅくかい}星熟会」に保護されている、素性不明の子ども。周囲からは「^{こんとん み こ}渾沌の御子」あるいは単に「^{み こ}御子」と呼ばれる。
元は「^{きた こ つ み}喜多骨巳」の^{なかば}実子「^な央ひかる」であり、先天性の心臓疾患を抱え幼少期から入院を繰り返していた。ただの少年であった彼がレネゲイドビーイングへ変貌するに至った経歴は、セッションに参加する PC の成り立ちによって二種類に区別される。

〈原典〉PC が新規作成キャラクターである場合……

元々はレネゲイドの存在も知らない一般人として育てられていたが、一年前に「喜多骨巳」がジャーナリズム化して研究に固執するようになってからは、星熟会に引き取られ社会から隔離された。その後、「喜多骨巳」の研究成果である「天の種子」と唯一適合可能であることが判明。先天性の心臓疾患により余命宣告を受けていたこともあり、適合を受け入れて人造レネゲイドビーイング「渾沌の御子」として新生する。

〈異典〉PC が他システムからのコンバートキャラクターである場合……

元々はレネゲイドの存在も知らない一般人として育てられていたが、一年前に心臓疾患を悪化させ寝たきりになってしまう。その後、「喜多骨巳」の研究成果である「天の種子」を摂取することで身体を作り変え生命維持を行ない、人造レネゲイドビーイング「渾沌の御子」として新生する。

てん しゅし 天の種子

FHセル「星熟会」によって開発された、極小のカプセル型をした装置で、人工的に調整されたレネゲイドが収められている。経口摂取によって宿主の心臓部に潜伏し、宿主の体組織を強制的に作り変える。無事に適合した場合、宿主はレネゲイドビーイングとして覚醒する。

特殊な《ワーディング》で周囲のレネゲイドへ接続し、植物の根のように対象の力を増幅させたり吸収したりすることでレネゲイドのコントロールを行なう。

また、この装置の力により「渾沌の御子」が取得しているエフェクトの内容は一部変質している。レネゲイドのルールをねじ曲げて行なわれている最適化は、ある意味ではルールを超越した神に相応しいと言えるかもしれない。

ちつじょ はり 秩序の針

散布された《ワーディング》物質を抑制し、吸収する装置。

いつでも使用できる。そのシーン中、半径 30m 以内の《ワーディング》を解除する。「天の種子」の能力を一時的に抑制する緊急時用の装置として「渾沌の御子」が身に着けている。

(性能はエネミーエフェクトデータ（ウロボロス）の「ワーディングキャンセラー」をモデルに設定している)

喜多 骨巳 / KITA Kotsumi

ブリード：クロス

シン드로ーム：ブラム＝ストーカー、ソラリス

コードネーム：ウォーカー

【肉体 4】【感覚 5】【精神 5】【社会 6】

HP：144 行動値：24 装甲値：0 浸蝕率：150% (+4 個)

取得エフェクト（浸蝕率反映済み）

〈生命増強 Lv4〉〈反射適応 Lv9〉〈ライフブラッド Lv3〉〈声なき者ども Lv3〉〈赤色の従者 Lv3〉〈愚者の軍団 Lv3〉〈盾なる人形 Lv3〉〈かりそめの盾 Lv4〉〈狂戦士 Lv4〉〈捧げる生命 Lv3〉〈不死不滅 Lv3〉

E ロイス

「虚実崩壊」「墮落の誘い」

FHセル「星熟会」の代表者であり、「央ひかる」の実父。「喜多」は離婚により苗字が旧姓に戻ったものである。

かつてはPC②の友人であり、UGNの協力者として「レネゲイドをコントロールする技術の開発」を目指す研究者であったが、一年前に発生した事故によってジャーム化し失踪した。その後、FHセル「星熟会」を立ち上げて人造レネゲイドビーイング「渾沌の御子」を生み出し、「渾沌の降臨」計画を企てる。

そのうちの一部の経歴は、セッションに参加するPCの成り立ちによって二種類に区別される。

〈原典〉PCが新規作成キャラクターである場合……

一年前、研究中のレネゲイドが暴走する事故が発生。暴走したレネゲイドの影響でジャーム化する。その後、FHセル「星熟会」を立ち上げ、事故の内容を参考にしながらより過激で効率的な研究を行ない「天の種子」を開発。唯一適合可能と診断結果の出た「央ひかる」に「天の種子」を投与し、「渾沌の御子」を生み出した。

〈異典〉PCが他システムからのコンバートキャラクターである場合……

一年前、異界から飛来してきた未知の生命体による襲撃事件が発生。襲撃の影響でジャーム化する。その後、FHセル「星熟会」を立ち上げ、捕縛した未知の生命体をベースに研究を続行し「天の種子」を開発。「央ひかる」に投与し、彼の生命維持も兼ねた研究成果物として「渾沌の御子」を生み出した。

FHセル^{せいじゅくかい}「星熟会」

「ウォーカー」によって立ち上げられた、レネゲイドのコントロールを目的とした研究を行なっている研究用セル。規模は小さいものの優秀で危険な研究員が集まっている。

人造レネゲイドピーイング「渾沌の御子」を生み出してからは一層研究速度が加速し、ほとんどのエージェントがジャーム化した。

「渾沌の降臨」計画

FHセル「星熟会」による、レネゲイドを掌握し完全にコントロールするによって「宇宙の再構築」を目指す計画。

この世界に存在するすべてのレネゲイド物質を「渾沌の御子」のもとへ集約させ、操作可能な状態に置く。そして、集約させたレネゲイドの総力でこの宇宙を破壊し、レネゲイドの存在しない新しい宇宙の構築を目指す。

神宿 実波 / KAMISYUKU Minami

ブリード：クロス（後にトライへ変化）

シンдрーム：ノイマン、パロール（新生の際追加でウロボロスが発現）

コードネーム：ゲイザー

取得エフェクト

〈ディメンジョンゲート〉〈瞬間退場〉〈瞬間退場II〉他

Dロイス

「古代種」

「古代種」と呼ばれるウイルスをその身に宿すオーヴァードの女性。数百年前から不老の存在として活動しており、UGN に対してはイリーガルとして時折協力関係を結んできた。PC ③と友人関係であり、レネゲイドに対して比較的肯定的な意見の持ち主。「いつかレネゲイドと人類が和解し、共存できる未来を創りたい」と考えていた。一年前に「喜多骨巳」のもとで発生した（事故 / 事件）への対応を要請され、要請を受けて現場に向かったものの死亡してしまう。しかし、死の淵でレネゲイドウイルスが特殊な覚醒または変容を遂げ、神宿実波の遺体を宿主とするレネゲイドビーイングとして蘇った。その後、レネゲイドビーイングとして新生した意識が「オーヴァードの神宿実波を蘇らせたい」と願い、「喜多骨巳」と協力関係を結んで FH セル「星熟会」の一員となる。

PC / PlayCharacer

PC がどのようにして本シナリオの物語に関わるようになったのかは、キャラクターシートの作成方法によって異なる。

〈原典〉PC が新規作成キャラクターである場合……

檜葉山市支部を中心とする UGN 協力者として調査任務を拝命し、「渾沌の降臨」計画を阻止するべく「星熟会」に迫る。

〈異典〉PC が他システムからのコンバートキャラクターである場合……

元々存在していた他システムの世界で発生した次元移動に巻き込まれ、ダブルクロスシステムの世界へと飛来した。次元移動の際にコンバート元のキャラクターは生い立ちや能力の一部が変異し、ダブルクロス世界の「オーヴァード（あるいはレネゲイドビーイング）」として新生する。

（コンバート元のキャラクターがなぜ次元移動に巻き込まれたのかは、好きなように決めてよい。この特殊な存在に対処しようとしていたのかもしれないし、偶然居合わせただけかもしれない）

プレイヤー向け事前情報

キャラクターの準備

このシナリオで遊ぶ際は、キャラクターを「新規作成する」または「他の TRPG システムで作成した既存のキャラクターをコンバート（転換）する」いずれかの方法で準備する必要がある。プレイヤーは事前に全員で相談し、キャラクターの準備方法をいずれか一方で統一すること。

新規作成する場合……

必ず、全員新しくキャラクターを創造すること。

(OK) プレイヤー全員がキャラクターを新規作成して準備する

(NG) プレイヤー A はキャラクターを新規作成し、プレイヤー B は「TRPG システム A」の既存キャラクターをコンバートする

コンバートする場合……

必ず、全員同一の TRPG システムからコンバートをすること。

コンバートしたキャラクターは『ダブルクロス the 3rd Edition』の世界に紛れ込んだ別の存在（パラレルワールドに派生した存在）として扱うこと。

(OK) プレイヤー全員が「TRPG システム A」の既存キャラクターをコンバートして準備する

(NG) プレイヤー A は「TRPG システム A」から、プレイヤー B は「TRPG システム B」から、それぞれ既存キャラクターをコンバートする

版の選択

キャラクターの準備方法をどちらにするかによって、シナリオ背景の一部が変化する（大まかなストーリー展開やクリア難易度は変化しない）。

新規作成する場合……

「YOMI 〈原典〉」をプレイすること。

コンバートキャラクターで遊ぶ場合……

「YOMI 〈異典〉」をプレイすること。

シナリオハンドアウト

各 PC には以下の設定がつく。GM はキャラクター作成時にプレイヤーとよく相談すること。

PC ①：UGN チルドレン。入院し、^{なかば}央ひかると知り合った。

PC ②：UGN、^{ひばやま}檜葉山市支部の支部長。かつて^{またこつみ}喜多骨巳と友人だった。

PC ③：UGN の協力者。^{かみしゆくみなみ}神宿実波と友人関係にある。

PC ①用ハンドアウト

カヴァー / ワークス：指定なし / UGN チルドレン

ロイス：央 ひかる（^{なかば}・ひかる）

推奨感情…… P：友情 / N：不安

キミは数年前、任務で大怪我を負い数ヶ月の入院を余儀なくされていた。そして入院生活のさなか、央ひかるという名前の少年と知り合う。彼は先天性の心臓疾患のために幼少期から入退院を繰り返しているらしく、貴重な同年代の話し相手であるキミへ親しげに話しかけてきた。

彼は病弱であること以外、何ら変哲のない一般人だった……はず、だった。

PC ②用ハンドアウト

カヴァー / ワークス：指定なし / UGN 支部長

ロイス：“ウォーカー”

推奨感情…… P：感服 / N：脅威

キミは、UGN・檜葉山市支部の支部長を務めている。UGN 日本支部長である霧谷雄吾から呼び出しを受け、“ウォーカー”というジャームの調査を命じられた。そしてキミは調査の過程で、“ウォーカー”の正体が一年前に失踪したかつての友人、喜多骨巳（^{またこつみ}きた・こつみ）であることを知る。

彼は、レネゲイドをコントロールする技術の開発を目指す研究者だった……はず、だった。

PC ③用ハンドアウト

カヴァー / ワークス：指定なし / 指定なし

ロイス：神宿 実波（^{かみしゆく}・^{みなみ}）

推奨感情…… P：連帯感 / N：恐怖

神宿実波はキミの友人であり、「古代種」と呼ばれるウイルスをその身に宿すオーヴァードのひとりだ。彼女はキミと知り合うはるか以前から古代種に関する研究をしており、「いつかレネゲイドと人類が和解し、共存できる未来を創りたい」と語っていた。

そんな彼女は、一年前から音信不通となっていた……はず、だった。

シナリオ舞台

シナリオの舞台は現代日本、東京近郊都市「檜葉山^{ひばやま}市」とする。
シナリオ内では日本語の文章を読み解く場面が多く登場するため、PC は日本語の基本的な読み書きと会話が可能である人物が望ましい。

情報収集フェイズ

このシナリオは情報収集フェイズでの調査項目が多めに設定されている。
〈調査：〉に役立つエフェクトやアイテムなどを所持する余裕があれば、積極的に取得することを推奨する。

注意書き・クレジット

本シナリオの無断転載および複製、二次配布、インターネット上へのアップロードを禁止します。

シナリオを元にした派生物（リプレイ、小説、イラスト等）はシナリオのネタバレに配慮し、皆様の快い TRPG プレイングにご協力をお願い致します。

本シナリオを使用したことで発生した問題について、作者は一切の責任を負いません。ご了承ください。

本シナリオの内容はフィクションであり、実在する人物、団体、事件等は一切関係ありません。

【制作】

シナリオ / NPC イラスト……七篠 K

トレーラーイラスト……野良猫ヶ原 (<https://x.com/noraneekogahara>)

【参考文献】

- ・『【図説】本の歴史』（樺山紘一編、河出書房新社、2011年）
- ・『NHK「100分de名著」ボックス 荘子』（玄侑宗久著、NHK出版、2016年）
- ・『言霊とは何か』（佐佐木隆著、中央公論新社、2013年）
- ・『心はすべて数学である』（津田一郎著、文藝春秋、2015年）
- ・『読破できない難解な本がわかる本』（富増章成著、ダイヤモンド社、2019年）
- ・『祝詞概説 新訂版』（西牟田崇生編著、国書刊行会、1995年）
- ・『言語の力』（ビオリカ・マリアン著、桜田直美訳、今井むつみ整訳、解説、KADOKAWA、2023年）
- ・『荘子』（岬龍一郎著、編訳、PHP 研究所、2013年）

【謝辞】

本シナリオは、TRPG シナリオ Web アンソロジー企画「Figural Echo」寄稿作品です。この場を借りて深く感謝申し上げます。

【クレジット】

本作は、「矢野俊策」「有限会社ファーイースト・アミューズメント・リサーチ」「株式会社 KADOKAWA」が権利を有する『ダブルクロス The 3rd Edition』の二次創作物です。

(C) 矢野俊策 / F.E.A.R.

SPLL : EI13317

トレーラー

書物とは歴史の標本であり、
文字とはその瞬間に生きた者を留める針である。

遥か太古より織りなされ積み重ねられたそれは、
彼の者にとってゆりかごとなるか、檻となるか。

黄泉よ。読めよ。^{やおよろず}八百万の宇宙の言祝ぎを。^{ことば}

ダブルクロス the 3rd Edition
「YOMI 〈原典〉」

ダブルクロス、それは裏切りを意味する言葉。

解説

PC ①と「央ひかる」が出会う、数年前の回想シーン。浸蝕率の上昇は行なわない。

任務で大怪我を負い、数ヶ月の入院生活を送ることになったPC ①が、病院内で「央ひかる」と出会う。「央ひかる」はPC ①と交流をして、自分が先天性の心臓疾患のために幼少期から入退院を繰り返していること、貴重な同年代の話し相手であるPC ①と友人になりたいことを話す。

やがてPC ①は退院の日を迎える。「央ひかる」はPC ①との再会を願い、「また会ったときも友だちになってね、約束だよ」と告げてPC ①を見送る。

シーン 1：約束の日（PC ①）

遡ること、数年前。

キミはとある任務で大怪我を負い、数ヶ月の入院を余儀なくされていた。

そして入院生活のさなか、^{なかば}「央ひかる」という名前の少年と知り合うことになる。

セリフ：央ひかる

「ねえ、キミも長期入院なの？」

「ぼく、央ひかるっていうんだ。キミは？」

「もしよかったら、お話しようよ。同じくらいの子で入院している子って、珍しくて……ずっとひとりで、退屈だったんだ」

キミへ親しげに話しかけてきた央ひかるという少年は、先天性の心臓疾患のために幼少期から入退院を繰り返しているらしい。貴重な同年代の話し相手であるキミに対し、「友だちになりたいんだ」と嬉しそうにキミへ笑っていた。

そしてキミが退院する日も、彼は笑顔を浮かべていた。寂しさを必死に隠して、明るくキミを送り出そうとしているのだと、キミにはすぐにバレただけれど。

セリフ：央ひかる

「退院おめでとう！ ぼく、キミと一緒にいられてすごく楽しかった。ありがとう」

「ねえ、PC ①。また会ったときも友だちでいてね、約束だよ！」

キミが彼と再会するのは、それから数年後のことだ。

そして、……………。

解説

PC ③と「神宿実波」が歓談する、一年前（事故発生直前）の回想シーン。

浸蝕率の上昇は行なわない。

PC ③は「神宿実波」の自宅に招かれ、他愛のない雑談に興じる。「神宿実波」は古代種に関する研究がなかなか進展しないことをぼやきながら、「いつかレネゲイドと人類が和解し、共存できる未来を創りたい」とPC ③へ夢を語る。

その日は何事もなく別れを告げるが、PC ③はその後一年間「神宿実波」が音信不通となることを知る。

シーン 2：さきがけ（PC ③）

遡ること、一年前。

キミは友人である「神宿実波」に頼まれ、彼女の書斎の整理を手伝っていた。

神宿実波は「古代種」と呼ばれるウイルスをその身に宿すオーヴァードのひとりで、UGN に対してはイリーガルとして時折協力関係を結ぶ立場にあった。キミと知り合うはるか以前から古代種に関する研究をしている彼女の自宅は、もはやちょっとした図書館だ。

セリフ：神宿実波

「やあ、ご足労いただきありがとうございます。早速だを手伝ってくれ！ さる愛書家から大量の蔵書を譲り受けてね。このままでは私が家から追い出されてしまう勢いなんだ」「君のほうは最近どうだい？ 何か面白いことはあったかな」

「私のほうは相変わらずさ。調査、研究、レネゲイド、調査、研究、そして、君。いやあ、来てくれて本当に助かるよ」

他愛のない雑談に興じながら、キミたちはそれぞれの近況を話す。それからゆっくりコーヒーを飲むのが、神宿とのお決まりの時間だった。

セリフ：神宿実波

「そういえば、UGN での活動は順調かい」

「私も UGN に所属してしまえば、もう少し自分の研究もしやすくなるんだろうけれど……あいにく、その気にはななくてさ。たまに協力するくらいの関係がちょうど良くてね」

「あそこ、目標として掲げているのが『人類とオーヴァードの共存』だろう？ それが私には、何となく合わなくてね……。私は『人類とオーヴァード』ではなく、『人類とレネゲイド』が和解して、共存できる未来を目指したいんだ」

人類とレネゲイドの共存。UGN の掲げる目的とは少し異なるその表現を、神宿は大切にしていた。

そのこだわりの真意をキミが知る日は、ついぞ訪れなかった。

なぜならその後、神宿からの連絡が来ることはなかったから。

キミが彼女の音信不通に気づいてから、もうすぐ一年が経つ。

そして、……………。

シーン 3：夜の境目（PC ②）

解説

PC ②と「喜多骨巳」が歓談する、一年前（事故発生直前から発生直後まで）の回想シーン。浸蝕率の上昇は行なわれない。

PC ②は任務の一環で「喜多骨巳」の所属する支部（または研究室）を訪れ、他愛のない雑談に興じる。「喜多骨巳」は PC ②の来訪を喜びながら、「レネゲイドをコントロールする技術の開発」について近々重要な実験を行なう予定を話す。数日後、「喜多骨巳」の所属する支部（PC ②と同じ支部の所属である場合は離れた場所に建つ別の研究棟）で事故が発生する。PC ②が現場へ到着した頃には既に「喜多骨巳」は姿を消しており、行方を追うことはできなくなっていた。

遡ること、一年前。

キミは任務の一環で、「喜多骨巳」の所属する支部を訪れていた。

喜多骨巳は UGN に所属する研究員のひとりで、キミの友人でもあった。オーヴァードではあったもののレネゲイドのコントロールが不得手で戦闘に参加できるだけの能力がなく、レネゲイドをコントロールする技術の開発を目指す裏方として UGN を支えていた。

任務のついでに喜多のもとを訪ねると、彼は研究の手を止めてキミを歓迎した。

セリフ：喜多骨巳

「やあ、PC ②。任務の帰りか？ お疲れさま」

「せっかくお前が来たことだし、少し休憩するか。飲み物はいつもので構わないな？」

「こっちは今丁度、次の実験に向けて準備をしているところだな……。明後日、新しく開発した装置の試作機で実証実験をするんだ。詳しい内容は話せないんだが、この実験で良い結果が得られれば、レネゲイドの操作精度を人工的に高める技術がまた一歩前進する」

「この調子で技術開発が進めば、いずれは俺も、お前と同じ戦場に立つ日が来るかもな」

喜多はくたびれた表情を不器用に歪めて、期待に満ちた未来を語った。

しかし、実験当日である、数日後。

彼の実験結果は、災害級の事故として記録される。

事故については最低限の情報のみが開示され、詳細のほとんどは関係者以外に明かされない閉鎖記録として取り扱われた。

キミが知っているのは、彼の実験が多くの犠牲者を出したこと。

そして、事故の報せを受けて急いで現場へ駆けつけたときには、……もう、喜多骨巳の姿は、どこにもなかったこと。

キミが彼のその後を知るのは、それから一年後のことだ。

そして、……………。

解説 I

「渾沌の御子」による時間跳躍が行なわれ、PC 全員と「渾沌の御子」が集合するシーン。

PC たちはカフェで目を覚めますが、この時点では「渾沌の御子」にまつわる一連の記憶を失っているため、「渾沌の御子」が誰なのかも把握していない。「渾沌の御子」は PC たちの様子だけ確認して、星熟会へ戻るため姿を消してしまう。

シーン 4：再開（全員）

青い、青い、宇宙が、ひらく。
そして。

キミは目を開く。

カフェの椅子に腰かけ、テーブルにはそれぞれが注文したのであろう飲み物や軽食が置かれている。少し膨らんだ半月が黒い空に浮かぶ、夜遅い時間帯。耳ざわりの良い音楽が遠くに聞こえる。

しかし、自分はなぜ、この場所にいるのだろう。

数時間前までの記憶が曖昧で、精神的な疲れも感じる。同席している人も同じ状況らしい。

この訳が分からない状況で、キミたちはどんな会話をするだろうか。

行動例 - 互いの身分を確認する

全員、互いに相手が少なくとも「UGN の協力者である」ことを把握している。
過去に共同任務についたことがある、資料で確認したことがある、など。

行動例 - PC の状況を詳しく確認する

怪我などではなく、服装や荷物は普段通りのものを身に着けている。

行動例 - 現在いる場所について確認する

ひばやま
檜葉山市にあるカフェのテーブル席だ。

状況確認を終える

ふとキミたちは、自分たちの席に誰かが近づいてくるのに気づく。

夜の底からぬっと立ち上がったような、暗く長い髪とローブ。耳元には鋭い針を思わせる銀色の耳飾り。鉛のような肌に、真昼の星をそのまま埋め込んだような眩しい目が右側にまたたいている。10 代前半の子どものような背丈のその人物は、キミたちをまっすぐに見つめて口を開いた。

セリフ：夜の色のこども（渾沌の御子）

「あなたたちも、戻ってきたんだね。おかえり」
「……………、忘れたの？」
「そう。ついさっきのことだし、混乱しているのかな」
「またね」

ほとんど会話がままならないうちに、謎めいた子どもはキミたちへ背を向ける。
そのまま、すう、と身をすべらせるようにしてカフェを出て行ってしまった。

解説 2

その後、PC ②は霧谷雄吾から連絡を受け、檜葉山市支部へ帰還する。帰還後、PC ②は「ウォーカー」と「星熟会」の調査を依頼される。

霧谷は、「ウォーカー」が最近檜葉山市で活動している姿が確認されたジャームで、FHセル「星熟会」のセルリーダーであること、最近檜葉山市で発生している連続失踪事件が「ウォーカー」の行動と関連している可能性があることを伝える。

その後

PC ②のもとに、檜葉山市支部のエージェントを通じて霧谷雄吾から連絡を受ける。
新しい任務を依頼したいとのことだ。

キミは霧谷と通信をするべく、一度檜葉山市支部へ帰還することになる。

檜葉山市支部へ帰還すると、通信画面越しに霧谷が新しい任務について告げた。

「お疲れさまです。早速ですが、新しい任務を依頼します」

「内容は、最近檜葉山市での活動が確認されたジャーム『ウォーカー』、および『ウォーカー』がセルリーダーを務めているとされているFHセル『^{せいじゅくかい}星熟会』についての調査です」

「『ウォーカー』については、活動開始時期が最近檜葉山市で発生している連続失踪事件と一致していることから、事件との関連性が疑われています。現時点では目立った動きはありませんが、そのために彼らの目的も読めない状況です」

「『ウォーカー』および『星熟会』の目的を明らかにし、状況に応じて彼らの企みを阻止してください」

PC ②が任務を受命し、シーン終了。

解説 1

PC が時間跳躍を行なう直前の記憶を夢に見るシーン。

解説 2

PC たちが任務開始前のブリーフィングを行なうタイミング。

PC が「一周目」の記憶の片鱗を取り戻し、不可解な記憶として知覚する。

シーン 5：違和（全員）

その日の夜、キミは夢を見る。

風が頬を撫でる。どうやら野外にいるようだ。

辺りはすすり泣きのような、歌のような、意味不明で不気味な声に包まれていた。

顔を上げる。

そこには今日出会った、あの不思議な夜の色をした子どもがいた。

子どもは片方だけの目を爛爛とかがやかせて、ゆっくりと首を傾げる。真夜中の暗い天空を見上げて、腕を伸ばし、それから。

ぱちり、まばたきをした。

瞬間、ガラスの花火が爆発したかのような眩い乱反射が世界を満たす！

あらゆる暗闇は引き裂かれ、すべての輪郭がずたずたになり、

青い、青い、宇宙が、ひらく。

そして、……………。

その後

キミたちを取り巻く世界はいつもと変わらない朝を迎える。

PC たちは任務を開始するために、全員檜葉山市支部に集合していた。

情報収集に向けてブリーフィングを始めようとしたとき。

チリ、とわずかな違和感が PC の身体の内側を走った。

キミたちは、このブリーフィングを行なうのは「2 回目だ」という不可解な感覚を得る。

単純に過去同じメンバーで任務についたことがあるとかいう話ではなく、「このメンバーで『ウォーカー』と『星熱会』の調査任務を行なった記憶がある」という、本来ならあり得ないはずの記憶が存在するのだ。

このままシーン継続した状態で情報収集フェイズへ移行する。

情報収集フェイズ

多くの人にとっては、昨日と同じ今日、今日と同じ明日を繰り返すほんの一幕。
キミたちにとっては、UGN の一員として活動を開始する非日常がはじまる。
そしてそれは、ある意味ではキミたちにとっての日常の一部だ。

調査項目

- ・ 檜葉山市連続失踪事件〈情報：噂話、警察、メディア〉6
- ・ ウォーカーについて〈情報：UGN、裏社会〉7、〈情報：UGN、裏社会〉10
- ・ FH セル「星熟会」について〈情報：UGN、裏社会〉9
- ・ 不可解な記憶〈情報：UGN、【感覚】〉14

檜葉山市連続失踪事件〈情報：噂話、警察、メディア〉6

檜葉山市では数ヶ月前から断続的に行方不明者が出ており、警察が連続失踪事件として捜査している。失踪者の共通点はなく、身代金要求などの犯行声明も一切出ていない。

ウォーカーについて〈情報：UGN、裏社会〉7

FH セル「星熟会」のセルリーダーとして活動しているが、元は UGN 所属の研究員だった。UGN 所属時点での情報によれば、本名は「喜多骨巳（きた・こつみ）」。プラム＝ストーカーとソラリスのクロスブリードで、当時はレネゲイドをコントロールする技術の開発を目指していた。

1 年前に原因不明の事故が発生し、それ以降行方不明となっていた人物である。

ウォーカーについて〈情報：UGN、裏社会〉10

現在は「完全なレネゲイドのコントロール」を目指すジャームと化しており、数ヶ月前から人為的にレネゲイドビーイングを生み出す実験を進めている。人造レネゲイドビーイングを用いて、何か計画を企てているようだ。